

桃青

池田省吾
Shogo Ikeda
伊勢崎晃一朗
Koichiro Isezaki
市川透
Toru Ichikawa
氏家昂大
Kodai Ujiie
木村盛康
Moriyasu Kimura
後藤秀樹
Hideki Goto
馬場隆志
Takashi Baba
平松龍馬
Kyoma Hiramatsu
三原研
Ken Mihara
柳下季器
Hideki Yanashita
山口真人
Makoto Yamaguchi
由良薫子
Kaoruko Yura
若杉聖子
Seiko Wakasugi

茶碗展

Tea Bowl Exhibition

秋の訪れとともに
ほっと一服
13人の作家による
珠玉の茶碗を愉しむ

2023 Fri 2023 Sat
10.06 - 10.28

茶碗展 Tea Bowl Exhibition

会期：2023年10月6日（金） - 10月28日（土）

桃青京都ギャラリー

〒604-0924 京都市中京区一之舟入町 375 SSSビル 1階

開廊時間：11:00-18:00 定休日：日・月

※最終日 16:00 閉廊

桃青

プレスリリース

桃青京都ギャラリーでは、一服のお茶を喫する器という枠組みにとどまらず、作家の美的感性や土の質感を五感で味わえる茶碗や作家の造形感覚によって現代アートに昇華させた茶碗などそれぞれの作家の個性が光る自信作を展示いたします。

掌の中に広がる景色から、作家が抱く思いや優しさ、さらにはパワーまで感じ取っていただけます。

鹿児島県種子島を拠点に作陶している池田省吾（1976年 鹿児島県生まれ）は、華やかで躍動感溢れる洒落た絵付けの織部や静寂の中に情趣漂う粉引染付など多様な技法による作品を発表しており、それぞれの作品が放つ圧倒的な存在感で見る者を魅了し続けています。

備前焼の人間国宝、伊勢崎淳氏を父に持ち、独自の斬新な造形による作品を制作している伊勢崎晃一郎（1974年 岡山県生まれ）は、備前焼の伝統的な技法によって土の素材感とともに豊かな表情を引き出す表現を追求する作家として国内外で高く評価されています。

隠崎隆一氏に師事し、備前焼の技法と自由な発想による造形感覚を学んだ市川透（1973年 東京都生まれ）は、従来の備前焼を超越した神秘的な造形と鮮やかな色彩が吹き込まれたアートとしての陶表現に挑み続けており、異彩を放つ作品は高く評価されています。

岐阜県多治見市を拠点に作陶している氏家昂大（1990年 宮城県生まれ）は、貫入や梅花皮といった伝統的な表現手法をベースに有機的なフォルムを追求しており、毛細血管を想起させる繊細な表情が漂う現代的な作品は国内外で大きな注目を浴びています。

京都で独自の天目表現を追求している木村盛康（1935年 京都府生まれ）は、壮大でダイナミックな宇宙観、混沌とした状態から立ち上がる世界の原点、あるいは創世の地を想像できる作品を制作し続けており、その作品は世界中で高く評価され多くの美術館で所蔵されています。

岐阜県多治見市を拠点に作陶している後藤秀樹（1973年 宮城県生まれ）は、海を主題にした「志野海神」という造形的な作品が代表作として知られ、豊かな表情を湛えた志野釉と力強い肌合いによって生み出される作品は見る者の心に響く存在感を放っています。

幼い頃から陶芸家を志し、東京藝術大学で彫刻を専攻した馬場隆志（1983年 岡山県生まれ）は、新たな備前焼としての多様な色彩や独創的な表現技法を追求しており、彫刻的なフォルムで造形した「使うことのできるオブジェ」は多くのファンを魅了しています。

桃青

歪みやヒビが出た作品に魅力を見出す平松龍馬（1986年 千葉県生まれ）は、荒々しい大地から掘り起こされた鉱物のように煌々とした輝きを持つ作品、龍や鬼から着想を得た作品などを制作しており、独自の感性が生み出す作品は見る者の心を揺さぶります。

島根県で作陶している三原研（1958年 島根県生まれ）は、独特な技法と卓越した造形力によって土の微妙な色や質感を追求しており、出雲の古の風土を感じさせる作品は国内外で高く評価され、メトロポリタン美術館をはじめ世界中の美術館で所蔵されています。

三重県伊賀市に穴窯を構える柳下季器（1967年 東京都生まれ）は、わびさびと不易流行を念頭に、現代と言う時代に流されることのない新しい変化を模索しながら多彩な作品を制作しており、見る者は静謐な雰囲気漂う本質的な美の世界に引き込まれます。

愛知県瀬戸市の西山窯の六代目である山口真人（1978年 愛知県生まれ）は、織部、志野、黄瀬戸などの伝統技法をはじめ、自由な発想と独自の感性で伝統的な織部をさらに進化させた「琳派織部」で人気を博し、存在感溢れる作品は国内外で高く評価されています。

岐阜県多治見市で制作している由良薫子（1993年 兵庫県生まれ）は、「なにかいるかもしれない」と思いながら、凸凹を拾って流れる釉薬や無作為につけた濃みを見つめて、見つけた生き物や妖怪を描いており、独特かつ魅力的な絵付けが見る者の心を惹きつけます。

兵庫県三田市にアトリエを構える若杉聖子（1977年 富山県生まれ）は、鑄込み技法によって花びらをイメージした白磁の作品を制作しており、洗練され凛とした雰囲気を湛える造形は国内外で多くの注目を集め、見る者を麗しく神々しい白の世界に誘います。

本展を通してそれぞれの作家独自の感性が共鳴しあう独特な世界をご高覧いただけますと幸いです。

ぜひ、貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸甚に存じます。
掲載用、写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡頂けますと幸いです。

桃青京都ギャラリー

担当: 浅野達也

〒604-0924 京都市中京区一之舟入町 375 SSS ビル 1 階

asano@gallerytosei.com

Tel: 075-585-5696 Fax: 075-585-5695